様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｈ０１３３３

研究課題名（和文）「共感すること」の歴史的変遷―18～20世紀ヨーロッパの感情史

研究課題名（英文）"Being in sympathy": the history of an emotion in Europe from the eighteenth to the twentieth century

研究代表者
伊東　剛史（ITO, Takashi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：１０６１１０８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,600,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトの最終的な成果としては、『現代思想』感情史特集号（2023年12月号）刊行への協力があげられる。同特集号には、さまざまな学問分野の研究者が寄稿したが、本プロジェクトからは小野寺（分担者）と森田（分担者）の巻頭対談に登場し、感情史の展開をふりかえりながら、今後の課題と可能性が具体的に提示した。また、同特集号には、伊東（代表者）と平田（分担者）も、それぞれ論文を寄稿した。両論文とも、感情史研究において用いられる様々な術語に潜む前提を改めて批判的に考察し、そのうえで研究者自身の当事者性や立ち位置を省みる必要があることを明らかにして、感情史の方法論に対する理解を深めることに寄与した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
主に上記のような成果により感情史研究を前進させることができた。歴史学の中でも感情史においては、とりわけ研究者の当事者性（立場性）が問われることが多い、すなわち現代社会の諸問題へのコミットメントや研究課題のアクチュアリティについて考えさせられることが多いと言える。この点についても、各研究成果を通して、問題の所在を確認し、今後の課題について言語化できたことは、感情史のさらなる学際的発展のために有益だったと考える。

研究成果の概要（英文）：The final outcome of this project includes contributions to the special issue on the history of emotions in Gendai shiso (December 2023 issue). Researchers from various academic fields have contributed to this special issue, with Onodera and Morita appearing in the lead dialogue, reflecting on the development of the history of emotions and specifically presenting future challenges and possibilities. Additionally, this special issue features articles by Ito and Hirata. Both papers critically reassess the assumptions inherent in various terms used in emotion history research and highlight the necessity for researchers to reflect on their own positionality. This contributes to a deeper understanding of the methodology in the study of the history of emotions.

研究分野：歴史学

キーワード：共感　感情史　感情の歴史学　ヨーロッパ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１. 研究開始当初の背景

研究を開始した 2020 年度の時点で、すでに世界各地における感情史研究が始まって 10 年以上が経過しており、多くの具体的成果があらわれていた。それにより、怒り、恐怖、愛情、名誉と恥辱といった感情が、社会の中でどのように表現・評価され、社会集団間の遭遇・交渉において、どんな役割を果たしたのかが明らかになってきた。そこで本プロジェクトでは、感情史研究の次のステップは、次のように定めた。①それらの成果を歴史学の研究蓄積に接続しながら、②特定の感情が集団に共有され、意思決定のプロセスに介在し、社会的変革の動力となるメカニズムを解明することである。この課題にとって、改めて、共感とは何だったのかという問いが、研究戦略上の出発点になると考えられた。

共感は感情史以前より、「新しい文化史」が取り組んできたテーマであるという点でも、感情史と従来の歴史学を接続するうえで、有効な研究主題となる。トマス・ラカーやリン・ハントによれば、共感は不特定他者の苦痛を自身の苦痛として想像し、救済のための行動を導く近代特有の感情である。この論に従えば、共感は後期啓蒙における拷問廃止、隷制廃止運動、人権思想の発展などの社会的変革を導いた、今日の市民社会の基底にある情ということになる（リン・ハント『人権を創造する』松浦義弘訳、岩波書店、2011 年）。かしこの理解には、次の 2 つの点で課題が残されている。

1. 道徳哲学において共感が概念化される前から、憐憫の情などの感情は存在した。しかし、不特定他者の苦痛を想像する新たな共感の理念型が、弱者救済等の従来からある共感の諸実践にどんな変化をもたらしたのかについては、十分議論されていない。したがって、思想史ではなく社会史の次元において、共感を抱くという行為はいかなる実践を伴ったのかを、実証的に検証しなければならない。
2. 共感には他者に感情移入し、その感情を自ら引き受けるという意味もある。この意味での共感は、自己と他者は別個の存在であっても同一の生物的身体を有する故に、互換的存在であるという想像と、その想像の現実性・規範性に依拠している。しかし、共感の身体的基盤がどのような歴史的過程を経て、現実性・規範性を獲得したのかは、未解明のままである。

上の 2 つの問題点をふまえ、本研究は共感を感情の共有、伝播、および身体性という観から再定義し、その社会的実態を個々の歴史的情況のもとで分析するという研究構想に至った。

２. 研究の目的

この問いに答えるため、本研究は理念や概念としての共感ではなく、「共感する」という行為に焦点をあて、これを「自他の感情の互換性を前提とし、言語・非言語表現により特定の感情を発信・受信する行為」と定義した。そのうえで、18 世紀から 20 世

紀を通して、⑴「共感すること」はどのような言語的記述の類型を生み出し、社会的実態の変化を導いたのか、⑵感情の身体性はその変化をどのように介在したのか、⑶そして、感情表現の発信・受信を可能にする場（共同体）の存立構造は何によって規定されたのかを解明することを、本研究の目的として設定した。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者と分担者の合計 8 名がそれぞれ設定する個別研究に基づき、ボトムアップ的に共同研究としての成果をまとめるという方法をとった。とくに研究開始時にはコロナ禍の影響により対面での討論が困難だったため、まずは各自の個別研究を推進し、その成果を検証、統合するという手順の方が合理的であると判断したためである。

4. 研究成果

本プロジェクトは、さまざまな制約を受けながらも各メンバーが精力的に活動したことで、多くの成果を残すことができた。中間的な成果の中で主要なものとしては、2021 年 6 月 11 日開催の「感情史ワークショップ――ローゼンワイン著『怒りの人類史』を読む」があげられる。本書は、もともと中世ヨーロッパ史の専門家である著者が、仏教思想における怒りの捉え方を議論に取り入れた点である。その怒りは正しい怒りなのかを問う西洋世界と、怒りを捨てるべきと諭す仏教世界が対置されている。この図式は、感情史の西洋中心主義的側面を乗り越えようとする試みから生まれたものでもある。そこで、ワークショップでは感情史に潜む西洋中心主義の相対化という問題を考えるため、大平英樹氏（名古屋大学・心理学）と、岩崎陽一氏（名古屋大学・インド哲学）を講師として招聘し、『怒りの人類史』について学際的な議論を交わした。

また、最終年度に行ったワークショップでは、芹生（分担者）が研究報告「後悔という名の欲望――アンシアン・レジーム末期、改革期の軍隊を脱走した兵士に示された「自主帰還」への道」を行い、18 世紀後半のフランスにおける軍隊の改革という文脈において、警察文書を参照しながら、脱走兵の感情の動態の解明に迫った。感情史の可能性を示す具体的な研究事例として位置づけられる。

図 1：『現代思想』2023 年 12 月

図 2：小川、吉野編『感受性とジェンダー』

本プロジェクトの最終的な成果としては、『現代思想』感情史特集号（2023 年 12 月号）への寄与があげられる（図 1）。同特集号には、さまざまな学問分野の研究者が寄稿したが、本プロジェクトからは小野寺（分担者）と森田（分担者）の巻頭対談に登場し、「感情がひらく越境と革新の可能性」について議論を交わした。これまでの感情史の展開をふりかえりながら、今後の課題と可能性を具体的に提示し、現在の状況を一望するための視座を提供した。また、同特集号には、伊東（代表者）と平田（分担者）も、それぞれ論文を寄稿した。前者は、感情史における歴史叙述という視点から、感情史を書くもの、その前提となる史料、そして書かれた感情史を読む者の間に生じうる共感について論じた。後者は、森田（分担者）の議論（「歴史学と文学のはざま？——感受性文学を手がかりに感情史を考える」小川公代、吉野由利編『感受性とジェンダー——〈共感〉の文化と近現代ヨーロッパ』（水声社、2033 年）87–107：図 2）をふまえて、ハントの論じる共感の二義性を射程に入れながら、「感情をめぐる理論と実践が社会と取り結ぶ相互作用的な関係の歴史」（122–3）を探究した。両論文とも、感情史研究において用いられる様々な術語に潜む前提を改めて批判的に考察し、そのうえで研究者自身の当事者性や立ち位置を省みる必要があることを明らかにして、感情史の方法論に対する理解を深めることに寄与した。

本プロジェクトの最終的な成果は、2024 年度日本西洋史学会大会・記念シンポジウム「感情史の課題と展望」における研究報告にも反映された。同シンポジウムでは、伊東が概論的な報告「感情史とは何だったのか？」（図 3）を行い、デジタル人文学との連携など感情史における今後の発展可能性について論じたあと、小野寺が具体的な研究報告「数量的分析は感情にどこまで迫れるか？—『クレンペラーの日記』を例に」（DH 担当の澤田望との共同報告）を行った。これらの報告は、本プロジェクトの直接の成果ではないものの、それが新たな展開を見せつつあることを確認できた点で、本研究の波及効果を示したと言えるだろう。

図 3：日本西洋史学会大会・記念シンポジウム　報告スライド資料より

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計26件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 伊東剛史	４．巻 26
２．論文標題 動物園展示と動物園史におけるアニマル・ターン	５．発行年 2021年
３．雑誌名 動物観研究	６．最初と最後の頁 9月16日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊東剛史	４．巻 312
２．論文標題 ニホンライチョウの記載に関する歴史研究	５．発行年 2021年
３．雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	６．最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊東剛史	４．巻 12
２．論文標題 進化論の被造物	５．発行年 2021年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 赤松淳子	４．巻 1016号
２．論文標題 姦通をめぐる交渉―18世紀のチャムリー家を事例として	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 47‐58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 芹生尚子	４．巻 48
２．論文標題 ルイ・セバスチャン・メルシエ「戦争について―夢―」翻訳・解題(２)	５．発行年 2023年
３．雑誌名 ふらんぼー = Flambeau	６．最初と最後の頁 173-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 芹生尚子	４．巻 36
２．論文標題 啓蒙の世紀における軍隊の影で ： 平和と改革の時代にフランス軍を脱走した兵士たちの記録が問いかけるもの	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日仏歴史学会会報	６．最初と最後の頁 84-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 芹生尚子	４．巻 14
２．論文標題 「生きた人間たち」を捉える眼	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Pieria = ピエリア	６．最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小野寺拓也	４．巻 50(1)
２．論文標題 ティルマン・アレルト『ドイツ式敬礼』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 177-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 42
2．論文標題 （書評）桑原ヒサ子『ナチス機関誌「女性展望」を読む―女性表象、日常生活、戦時動員』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Flaschenpost	6．最初と最後の頁 8月8日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 1017
2．論文標題 2021年度歴史学研究会大会報告批判 全体会	5．発行年 2021年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 31-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 67
2．論文標題 解題（小特集「四月例会」）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代史研究	6．最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 6
2．論文標題 「歴史総合」への期待と課題	5．発行年 2022年
3．雑誌名 山川歴史PRESS	6．最初と最後の頁 1月5日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西谷修、中村隆之、 平田周	4．巻 3418
2．論文標題 人種主義を克服するための世界史ー『人間狩り』『黒人と白人の世界史』（明石書店）刊行を機に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 週刊読書人	6．最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊東剛史	4．巻 305
2．論文標題 20世紀初頭のフィリピン南部における鳥類採集ー新種の発見と命名をめぐって	5．発行年 2020年
3．雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	6．最初と最後の頁 25_48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34360/00011363	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊東剛史	4．巻 5(1)
2．論文標題 感情史の萌芽と心理学ーホイジンガとフェーヴル	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エモーション・スタディーズ	6．最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20797/ems.5.1_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊東剛史	4．巻 48(16)
2．論文標題 ダーウィンとストリキニーネ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田周	4．巻 第48巻第7号
2．論文標題 広範囲の都市化を通じたウイルスの伝播	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 126-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田周	4．巻 第52巻第7号
2．論文標題 現実の空間と空間の表象ー新たな表象の政治に向けて	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ユリイカ	6．最初と最後の頁 298-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森田直子	4．巻 5(1)
2．論文標題 歴史学は感情をどう扱うのか――罵りをめぐる感情史の一試論――	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エモーション・スタディーズ	6．最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20797/ems.5.1_45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 695
2．論文標題 『ナチのプロパガンダとアラブ世界』のあとさきーグローバル・ヒストリーとしてのファシズム 3	5．発行年 2020年
3．雑誌名 みすず	6．最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 698
2．論文標題 感情史の視点からみるナチ体制―「喜び」の動員と余暇・娯楽	5．発行年 2020年
3．雑誌名 みすず	6．最初と最後の頁 12月25日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 12
2．論文標題 燃やす・奪う・持論を補強する・人を救うーナチ体制下における本と読書の「四元素」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 pieria	6．最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小野寺拓也	4．巻 2021.3.14
2．論文標題 なぜナチズムは「国家社会主義」ではなく「国民社会主義」と訳すべきなのか	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代ビジネス	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 芹生尚子	4．巻 5（1）
2．論文標題 18 世紀後半フランスにおける脱走兵の処罰をめぐる論争と改革―感情と法，そして統治技法との絡み合い―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エモーション・スタディーズ	6．最初と最後の頁 135-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20797/ems.5.1_64	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 芹生尚子	4．巻 23
2．論文標題 （共著）Introduction: WarViolence and Gender in a Global Perspective: Memories and Representations in the Cases of the Algerian WarSouth Korean ‘Comfort Women’ and the Bosnian ‘Mothers of Srebrenica’	5．発行年 2021年
3．雑誌名 クァドランテ	6．最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 芹生尚子	4．巻 46
2．論文標題 ルイ・セバスチャン・メルシエ「戦争について－夢－」翻訳・解題（1）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ふらんぼー = Flambeau	6．最初と最後の頁 197 -205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　7件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 小野寺拓也
2．発表標題 書評シンポジウム ヤン・プランパー、森田直子監訳『感情史の始まり』ー趣旨説明
3．学会等名 現代史研究会4月例会（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 小野寺拓也
2．発表標題 感情史研究の射程―ナチ体制における「感情政治」と感情的発話
3．学会等名 日本法哲学会学術大会 2021年度学術大会「法と感情」（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 小野寺拓也
２．発表標題 歴史学とはどのような学問なのか―武井彩佳『歴史修正主義』を通じて
３．学会等名 WINEオンライン講演会「歴史と法：歴史修正主義的な言説とどう向き合うか」（第9回研究会）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小野寺拓也
２．発表標題 コメント（門間卓也「戦時体制に連なる教師たちー「クロアチア独立国」のジェンダー規範を巡る考察」）
３．学会等名 第2回WINE若手研究者研究発表会（第10回研究会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 伊東剛史
２．発表標題 感情史における「怒り」の位置づけ
３．学会等名 感情史ワークショップ：ローゼンワイン著『怒りの人類史』を読む
４．発表年 2021年

１．発表者名 Takashi Ito
２．発表標題 The Logistics of Bird Collecting in the Age of Empires: The Finding and Naming of the Mikado Pheasant_
３．学会等名 Logistical Natures Workshop（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊東剛史
２．発表標題 動物園史の現在
３．学会等名 動物観研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊東剛史
２．発表標題 気候馴化と動物資源管理の歴史ー19世紀イギリスを中心に_
３．学会等名 上智大学地球環境研究所「サステナビリティとダーウィニズムについて考える」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊東剛史
２．発表標題 感情史の理論と実践
３．学会等名 東北大学国際文化研究科国際日本研究講座企画公開講演（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 平田周
２．発表標題 プラネタリー・アーバニゼーション研究の可能性をめぐって
３．学会等名 地理思想研究部会（人文地理学会）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 赤松淳子
２．発表標題 離婚をめぐる夫婦間交渉―18世紀チャムリー家文書と裁判記録
３．学会等名 第41回歴史人類学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 小野寺拓也
２．発表標題 歴史的に考えるとはどういう営みか―『アンネの日記』の授業実践から
３．学会等名 ドイツ現代史学会第42回大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 小野寺拓也
２．発表標題 書評 スーザン・L・カラザース、小滝陽訳『良い占領？―第二次大戦後の日独で米兵は何をしたか』
３．学会等名 西洋近現代史研究会1月例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 芹生尚子
２．発表標題 啓蒙の世紀における軍隊の影で－平和と改革の時代にフランス軍を脱走した兵士たちの記録が問いかけるもの－
３．学会等名 日仏歴史学会（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計19件

1．著者名 Takashi Ito	4．発行年 2021年
2．出版社 De Gruyter Oldenbourg	5．総ページ数 -
3．書名 History of the Zoo' in M. Roscher, A. Krebber and B. Mizelle (eds), Handbook of Historical Animal Studies 441-457	

1．著者名 ファニー・コザンデ，ロベール・デシモン（フランス絶対主義研究会訳）	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 358
3．書名 フランス絶対主義－歴史と史学史	

1．著者名 芹生尚子	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 2
3．書名 [訳者コラム] 「Parlement高等法院(パルルマン) 」：ファニー・コザンデ，ロベール・デシモン（フランス絶対主義研究会訳）ファニー・コザンデ，ロベール・デシモン（フランス絶対主義研究会訳）	

1．著者名 Naoko Seriu	4．発行年 2021年
2．出版社 online	5．総ページ数 2
3．書名 Le retour du soldat Onoda et ses r_sonances_ dans 'Nicolas Anthom_,ONODA. UN FILM DE ARTHUR HARARI,	

１．著者名 平田周・仙波希望（編）	４．発行年 2021年
２．出版社 以文社	５．総ページ数 443
３．書名 惑星都市理論 333-354	

１．著者名 平田周	４．発行年 2021年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 272
３．書名 人間狩り 215-240	

１．著者名 平田周	４．発行年 2021年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 25
３．書名 コメット通信（17）9-11	

１．著者名 平田周	４．発行年 2022年
２．出版社 青土社	５．総ページ数 253
３．書名 現代思想50（1）70-76	

１．著者名 平田周	４．発行年 2022年
２．出版社 新教出版	５．総ページ数 80
３．書名 福音と世界 77（4）12-17	

１．著者名 中村靖子（編）	４．発行年 2022年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 450
３．書名 予測と創発―理知と感情の人文学 159-195	

１．著者名 伊東剛史	４．発行年 2021年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 -
３．書名 ロンドン動物学会と動物学の制度化――専門分科の分岐点：大野誠編『近代イギリス科学の社会史』	

１．著者名 伊東剛史	４．発行年 2021年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 -
３．書名 （共訳）バーバラ・H．ローゼンワイン/ リッカルド・クリスティアーニ『感情史とは何か 』42_97	

１．著者名 塚原東吾、平田周	４．発行年 2021年
２．出版社 亜紀書房	５．総ページ数 -
３．書名 グローバルとロー カルの来たるべき「あいだ」へ： 奥野克巳・近藤祉秋・辻陽介編『コロナ禍をどう読むか』369-427	

１．著者名 平田周	４．発行年 2021年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 -
３．書名 プラネタリー・アーバニゼーション ：横浜国立大学都市科学部編『都市科学事典』 1004-1005	

１．著者名 平田周	４．発行年 2021年
２．出版社 以文社	５．総ページ数 -
３．書名 プラネタリー・アーバニゼーション研究をひらく；都市への権利、ある思想の運命：平田周・仙波希望編『惑星都市理論』3-25、333-354	

１．著者名 森田直子	４．発行年 2020年
２．出版社 みすず書房	５．総ページ数 608
３．書名 （監訳）ヤン・プランパー『感情史の始まり』	

1．著者名 森田直子	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 -
3．書名 （共訳）バーバラ・H．ローゼンワイン/ リッカルド・クリスティアーニ『感情史とは何か 』2_39	

1．著者名 小野寺拓也	4．発行年 2020年
2．出版社 みすず書房	5．総ページ数 -
3．書名 （共訳）ヤン・プランパー、森田直子監訳『感情史とは何か』13-41	

1．著者名 小野寺拓也	4．発行年 2021年
2．出版社 KADOKAWA	5．総ページ数 264
3．書名 （単訳）ウルリヒ・ヘルベルト『第三帝国ーある独裁の歴史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平田　周 (Hirata Shu) (00803868)	南山大学・外国語学部・准教授 (33917)	
研究分担者	篠原　琢 (Shinohara Taku) (20251564)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小野寺　拓也 (Onodera Takuya) (20708193)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	森田　直子 (Morita Naoko) (30452064)	立正大学・文学部・准教授 (32687)	
研究分担者	赤松　淳子 (Akamatsu Junko) (60723004)	文京学院大学・外国語学部・准教授 (32413)	
研究分担者	芹生　尚子 (Seriu Naoko) (70783702)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	巽　由樹子 (Tatsumi Yukiko) (90643255)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関